

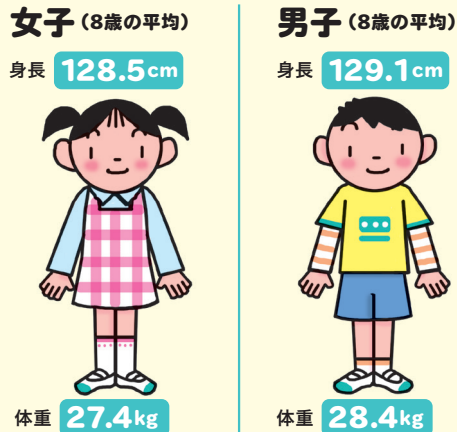
3年生の「心とからだ」データ集



コロナ禍での生活も3年目に入りまし
た。3年生の子供たちは、どんな生活
を送っているでしょうか。今の子供た
ちをよりよく知るための資料を集めま
した。

1 身長・体重

「学校保健統計調査」では、裸眼視力1・0未
満の割合は、年齢が高くなるにつれて増加傾向
が見られます。1年生では約4人に1人、6年
生で約半数に上りました。むし歯(う歯)は8



※令和2年度の文部科学省「学校保健統計調査」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査期間が例年と異なっています。このため過去の数値と単純比較することはできません。

2 体力・運動能力

歳(3年生)で割合が最も多く、鼻・副鼻腔疾
患は9歳(4年生)で最も多くなっています。

	8歳男子	8歳女子
握力(kg)	13.06	12.37
上体起こし(回)	16.21	15.62
長座体前屈(cm)	29.98	33.95
反復横とび(点)	36.12	34.85
20mシャトルラン(往復持久走)(折り返し数)	37.03	31.02
50m走(秒)	9.95	10.28
立ち幅とび(cm)	138.60	129.89
ソフトボール投げ(m)	15.79	9.84
合計点(点)	45.00	46.53

※令和2年度については、体力・運動能力調査も新型コロナウイルス感染症の影響により、調査期間の延長や調査を実施できなかった自治体もあるため、スポーツ庁では「参考値」として公表しています。

3 家庭での過ごし方

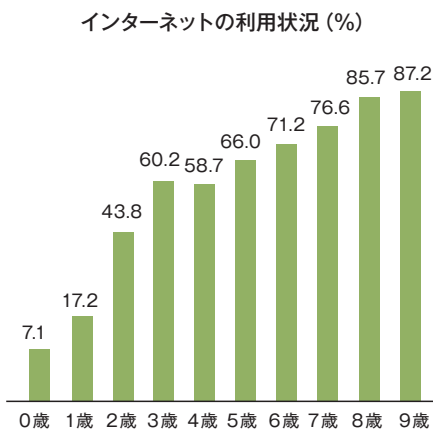
スポーツ庁「令和2年度体力・運動能力調査」
によると、合計点は前年度と比較して、小学生
の一部を除いて全般的にわずかに低い傾向が見
られます。ですが、期間が短いため、コロナ禍
の影響と評価することはできません。

公文教育研究会は、2020年11~12月、1
~3年生の子供がいる世帯の母親1000人、
父親800人を対象に「家庭学習についての調査」
を実施しました。

4 インターネット

内閣府では毎年度「青少年のインターネッ
ト利用環境実態調査」を実施しています。
2020年11月、全国の0~9歳の子供の保護
者3000人に行った「低年齢層の子供の保護
者調査」を見てみましょう。

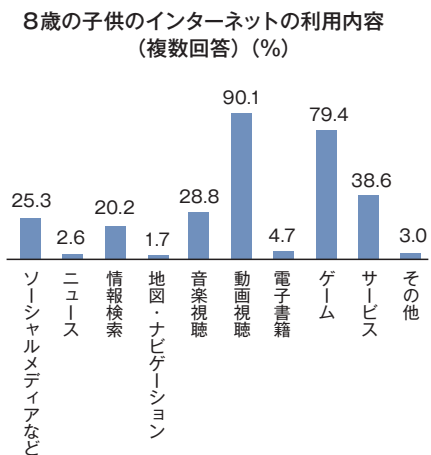
「子供はインターネットを利用していますか」
という質問では、「利用している」は全体の64・0
%、「利用していない」は36・0%でした。小学
校に入学する時点(6歳)で7割を超えており、
8歳で85・7%でした。



「インターネットの利用内容」

それでは、子供はインターネットを何の目的
で使用しているでしょうか。インターネットを
使用している子供を対象に利用内容を調査した
結果、8歳で最も多いのが「動画視聴」(90・1%)

で、次が「ゲーム」(79・4%)でした。

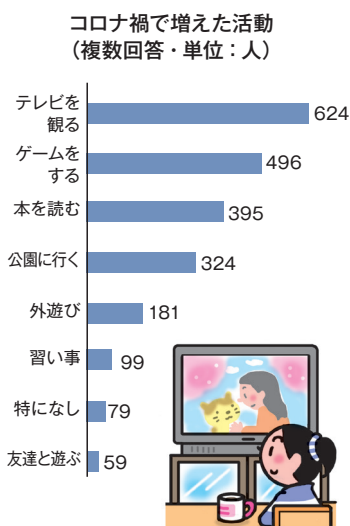


5 コロナ禍での子供の様子

小学館の育児メディア「HugKum」(はぐ
くむ)では、2021年4~5月、HugKum
WEB会員の保護者(有効回答数1090)
を対象に、コロナ禍における子供のおうち遊び
の様子を調査しました。

「コロナ禍で見られた子供の様子」

コロナ禍で増えた活動は「テレビを観る」が



「家庭学習の時間」

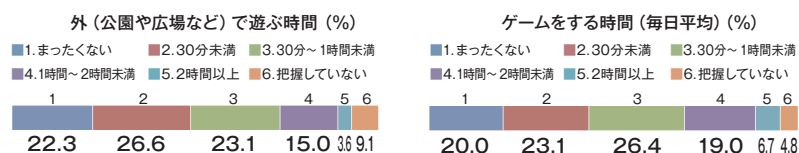
1~3年生の子供の家庭学
習の頻度は、週平均「5・8
日」、1日の平均学習時間は
「36・3分」です。2019年
度の調査結果の週平均「5・9
日」、平均学習時間「37・1
分」よりやや減少していまし
た。

「ゲームをする時間」

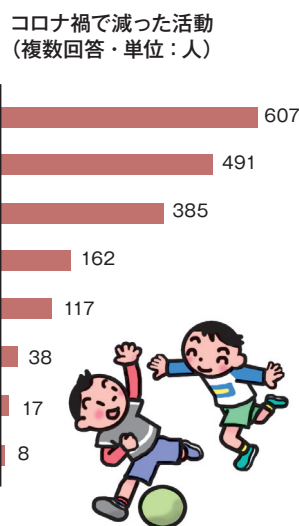
子供の家での過ごし方を聞
いたところ、ゲームをする時
間が「1~2時間未満」が19・0
%、「2時間以上」が6・7%
と回答しています。「1時間
以上ゲームをする」割合は
25・7%でした。1~3年生
の4人に1人が、1時間以上
ゲームをしているという結果
です。

「外(公園や広場など)で遊ぶ時間」

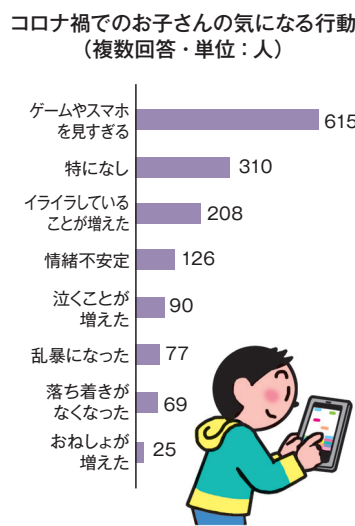
「外でまったく遊ばない」が
22・3%のとなり、日常的に
外(公園や広場など)で遊
ばない子供が2割以上いる
という結果です。一方、「外
で2時間以上遊ぶ」子供は
3・6%で、ごく少数でした。



圧倒的に多く、ついで「ゲームをする」でした。
第3位は「本を読む」となっており、おうち時
間を有意義に活用している様子もうかがえます。



減った活動は、「友達と遊ぶ」「外遊び」「公園
に行く」などのアクティブな遊びや活動でした。



そうした環境下、コロナ禍での子供の気にな
る行動として、「ゲームやスマホを見すぎる」が
最も多く、「イライラしていることが増えた」「情
緒不安定」「泣くことが増えた」など、子供の不
安定な精神状態が反映された結果となりました。